

## 第5章 河川水辺の国勢調査

### 第1節 河川水辺の国勢調査

#### 1. 調査項目と内容

「河川水辺の国勢調査」は、河川の適切な整備と管理のため、河川環境に関する基礎的な情報を収集する目的で、平成2年から実施している。

本調査は、河川およびダム湖とその周辺における自然環境に関する基礎情報（魚介類、植物、鳥類、昆虫類などの生息・生育状況や、河川環境としての河道の瀬・淵、水際などの水域の状況）の調査を行う「基本調査」と、河川空間の利用者数や利用状況などの調査を行う「空間利用実態調査」からなっている。

河川における生物調査は、魚介類調査、底生動物調査、植物調査、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、および陸上昆虫類等調査の6項目で構成されていた。

平成18年度以降は、この6項目の生物調査（ただし「魚介類調査」は、魚類のみを対象とし、「魚類調査」とした）を継続するとともに、河川環境の基盤となる河川の物理環境や植生分布について一元的に調査を実施するため「河川調査」並びに植物調査のうちの「植生図作成調査」、「群落組成調査」および「植生断面調査」を「河川環境基図作成調査」として行うことにした。6項目の生物調査および河川環境基図作成調査からなる調査は、新たに「基本調査」として位置づけられることになった。

これまでの調査は、6項目いずれも5年に1回の頻度で実施してきたが、平成18年度以降は、魚類調査、底生動物調査、河川環境基図作成調査は5年に1回、植物調査、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査は10年に1回以上の頻度で実施し、10年間ですべての調査項目を一巡させることになった。

また、河川空間の利用者や利用状況等の調査を行う「空間利用実態調査」は、当初は概ね3年に1回、平成22年度からは5年に1回調査を実施している。

本調査の実施にあたっては、当該調査に関して専門的知識を有する学識経験者の方々に「河川水辺の国勢調査アドバイザー」になっていただき、調査の計画から成果のとりまとめまで全般にわたり助言をいただき、調査精度の確保に努めている。

## 2. 調査の経緯

十勝川水系においては、十勝川・利別川・札内川・音更川を対象に、平成3年度より当該調査を開始しており、平成18年および平成28年のマニュアル改正を経て、現在、5巡目の調査を行っている。

平成18年度から各項目の調査は、概ね10カ年で全ての調査が一巡するようローテーションを組んで実施しており、植物調査（植物相調査）、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査は10カ年ごと、魚類調査、底生動物調査、環境基図作成調査（水域調査・陸域調査）、空間利用実態調査については5カ年ごとに実施している。

十勝川水系における河川水辺の国勢調査の実施状況を以下の表に示す。

河川水辺の国勢調査【河川版】（生物調査編）の実施状況

調査巡	調査年度および調査項目									
	H3	H4	H5	H6	H7					
1 巡目	魚, 底, 基/水, 両爬哺	魚, 底, 虫, 両爬哺	底, 鳥	基/陸, 基/水, 植	基/陸, 基/水, 植					
	H8	H9	H10	H11	H12					
2 巡目	両爬哺	魚, 底	虫	鳥	基/陸, 基/水, 植					
	H13	H14	H15	H16	H17					
3 巡目	両爬哺	魚, 底	虫, 空	鳥	基/陸, 基/水, 植					
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
4 巡目	空	魚, 底	両爬哺	基/陸, 空	基/水	—	魚, 底	鳥, 虫	基/陸, 植, 空	基/水
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
5 巡目	—	魚, 底	両爬哺	基/水, 空	基/陸	虫	魚, 底	鳥	基/陸, 植, 空	基/水

魚：魚類調査、底：底生動物調査

基/陸：環境基図作成調査のうち陸域調査、基/水：環境基図作成調査のうち水域調査

植：植物調査、虫：陸上昆虫类等調査、両爬哺：両生類・爬虫類・哺乳類調査、鳥：鳥類調査、空：空間利用実態調査

## 第2節 河川水辺の国勢調査（ダム湖版）

### 1. 調査項目と内容

「河川水辺の国勢調査（ダム湖版）」は、ダム事業及びダム管理を適切に推進するため、ダム湖及びダム湖周辺の環境に関する基礎情報を収集整備する目的で、平成2年から実施している。

ダム湖における生物調査は、魚介類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、植物調査、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査7項目で構成されていた。

平成18年度以降は、この7項目の生物調査（ただし「魚介類調査」は、魚類のみを対象とし、「魚類調査」とした）を継続するとともに、ダム湖周辺環境の場を把握し、流入・下流河川の物理環境やダム湖周辺の植生分布について一元的な調査を実施することを目的として、これまでの植物調査のうちの「植生図作成調査」、「群落組成調査」および「植生断面調査」を「ダム湖環境基図作成調査」として行うことにした。7項目の生物調査およびダム湖環境基図作成調査からなる調査は、新たに「基本調査」として位置づけられることになった。

これまでの調査は、7項目いずれも5年に1回の頻度で実施してきたが、平成18年度以降は、魚類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、ダム湖環境基図作成調査は5年に1回、植物調査、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査は10年に1回以上の頻度で実施し、10年間ですべての調査項目を一巡させることになった。また、各調査項目について、水系全体を通じて生物の生息・生育状況の把握ができるよう、同一年の調査項目を水系単位で統一した計画を策定している。

また、河川空間の利用者や利用状況等の調査を行う「ダム湖利用実態調査」は、当初は概ね3年に1回、平成21年度からは5年に1回調査を実施している。

本調査の実施にあたっては、当該調査に関して専門的知識を有する学識経験者の方々に「河川水辺の国勢調査アドバイザー」になっていただき、調査の計画から成果のとりまとめまで全般にわたり助言をいただき、調査精度の確保に努めている。

## 2. 調査の経緯

十勝川水系では、十勝ダム及び札内川ダムを対象に、十勝ダムは平成3年度より、札内川ダムは平成14年度より当該調査を開始しており、平成18年および平成28年のマニュアル改正を経て、現在、5巡目の調査を行っている。

平成18年度から各項目の調査は、概ね10カ年で全ての調査が一巡するようローテーションを組んで実施しており、植物調査（植物相調査）、鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査は10カ年ごと、魚類調査、底生動物調査、動植物プランクトン調査、環境基図作成調査（水域調査・陸域調査）、空間利用実態調査については5カ年ごとに実施している。

十勝川水系における河川水辺の国勢調査（ダム湖版）の実施状況を以下の表に示す。

河川水辺の国勢調査【ダム湖版】（生物調査編）の実施状況

調査巡	調査年度および調査項目										
	ダム名	H3	H4	H5	H6	H7					
1巡目	十勝ダム	魚	植, 虫, 両爬哺	魚, 底, プ, 虫	魚, 底, プ, 植, 両爬哺, 鳥	植					
	ダム名	H8	H9	H10	H11	H12					
2巡目	十勝ダム	両爬哺	魚, 底	虫	プ, 鳥	植, 空					
	ダム名	H13	H14	H15	H16	H17					
3巡目	十勝ダム	両爬哺	魚, 底, プ	虫, 空	鳥	基/陸, 基/水, 植					
	札内川ダム	—	魚, 底, プ	両爬哺, 空	虫	鳥					
4巡目	ダム名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	十勝ダム	空	魚, 底, プ	両爬哺	基/陸, 空	基/水	—	魚, 底, プ	虫, 鳥	基/陸, 植, 空	基/水
5巡目	札内川ダム	植, 空	魚, 底, プ	両爬哺	基/陸, 空	基/水	—	魚, 底, プ	虫, 鳥	基/陸, 植, 空	基/水
	ダム名	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
5巡目	十勝ダム	—	魚, 底, プ	両爬哺	基/水, 空	基/陸	虫	魚, 底, プ	鳥	基/陸, 植, 空	基/水
	札内川ダム	—	魚, 底, プ	両爬哺	基/水, 空	基/陸	虫	魚, 底, プ	鳥	基/陸, 植, 空	基/水

魚：魚類調査、底：底生動物調査、プ：動植物プランクトン調査

基/陸：環境基図作成調査のうち陸域調査、基/水：環境基図作成調査のうち水域調査

植：植物調査、虫：陸上昆虫類等調査、両爬哺：両生類・爬虫類・哺乳類調査、鳥：鳥類調査、空：空間利用実態調査

